



14
A 3731

大隈伯爵閣下
親展

三十年七月二十一日
稲富義偉敬具

取立スルハ則チ既
ラ明ラカニ直
是法文ノ不備
買取列ハ直取
ラカニ取列所ノ特
ク現物ノモノ賣
件ノ賣買スル限
取列スル取列
下アルニ抵觸ス
セサル限リハ有優
勿論既後深



114
A 3731



取引所法解新論

論者より米又有價証券、現市場ヲ設スルハ則チ既
 後取引所、既得権ヲ侵害スルモノナリ取引所法ハ
 其第廿五条ニ於テ定期取引、之ノ特権ヲ明ラカシ直
 取引及延取引、特権ヲ規定セスト然レモ是法文ノ不備
 ノニ其第九八〇法第十八条ニ(取引所、賣買取引ハ直取
 引延取引及定期取引、三種ト)スト明ラカシ取引所、特
 権ヲ規定シアルニ非ズヤ故ニ亦取引即チ現物ノ之ノ賣
 買ニモセシ苟クモ市場ヲ設ケ日種ノ物件ヲ賣買取引
 引ハ口法第二條ニ(口種ノ物件ヲ賣買取引スル取引
 所ハ一地区一箇所ニ限リ設スル)ト得下アルニ抵触ス
 ルヲ以テ取引所法ヲ故ニ地区ヲ變更セザル限リハ有價
 証券現市場ノ設テラ認許スハカサハ八〇條既後條



川其他正米市場、如キモ宜シク禁止スヘク彼、明治廿九年三月農商務省令第一号ハ取引所法ノ誤解ヨリ出タルモノニ付是又連カテ消取サルヘキモノト云ヘリ

前論ハ頗ル取引所法ノ曲解ニ涉ルモノト云ヘリ若シ論者ノ言、如ク由取引所法ハ取引所ノ特權ニ屬スルモノトセハ先ツ其取引所カ得タル特權、由來ヲ詳ヒラカセサルヲ得ス元來由取引所及近取引所ナルモノハ性法上及古來ノ慣習ニ基キ著通商費カ日常行ヒ来リシ賣買法ニシテ各人自由ノ營業ニ屬スルモノトハ取引所ハ其設立、為知ニ於テ各人既得權ヲ侵害シ之ヲ掠奪スルニ非サレバ其特權ヲ有スルノ理ナシ豈ニ夫レ如キノ理アラズヤ立法ノ原理ハ謂レナク一方者ノ權利ヲ奪ヒ一方者ニ與フハキモノニ非ス斯ク特權、由來ヲ實シ立法ノ原理ヲ究ルニハ取引所法ニ直取引及近取引

ヲ取引所ノ特權ニ屬セシメサル理由判明ニシテ立法者ノ精神ヲ洞察スルニ餘リマルヘシ再言スレバ各商賣カ自家若クハ一ノ市場ニ於テ之ヲ行フモ取引所ト云フ法人カ其取引所用ノ市場ニ於テ之ヲ行フモ其ノ營業ノ自由ニ屬シ其權利ニ輕重アルナシ其証尤ハ定期取引ニ限り課税ノ規定アレバ直取引及取引ニ課税ノ規定ナキ点ヨリ看ルモ之ヲ取引所ノ特權ニ屬セシメサル立法者ノ精神明確ナリトス殊ニ市場ト云フ各商賣カ多ク集合シ賣買取引スル所、稱呼ニシテ取引所獨占ノ名稱ニアラス故ニ市場ノ設ケハ取引所法地ニ規定ニ毫モ關係ナキモノトス其取引所法第二章ハ取引所ト云フ名稱ニ限り地区ヲ規定シタルモノナルヲ知ルヘシ

其定期取引ニ至ラハ古來個人ノ自由營業ヲ許サス中古大改

堂嶋ノ米市場ニ特許シタルヲ濫觴トス之ヲ特許スルモ敢テ個人ノ營業權ヲ害セサルヲ以テ之ヲ取引所ノ特權ニ屬セシメ取引所法第廿五條ノ規定アルハ立法ノ原理ニ適合シ且モ之向然ニ見所ナシ爰之ヲ取引所法第十八條ハ賣買取引ノ方法ヲ指定シタルモノニシテ取引所ノ特權ヲ規定セシモノニ非ザル法文ノ意義自ラ秋然タルハシ

右ノ理由ナリ以テ有價証券市場ノ設立ヲ認許スルニ於テ取引所法及明治廿九年三月農商務省令第一号八百七五號觸ルニ所ナシ